

真生会富山病院を受診された患者の皆さま

当院は下記の研究を実施しています。この研究の対象者に該当する可能性のある方で、診療情報等を研究目的に利用または提供することを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にお問い合わせ下さい。

研究課題名	腱板大・広範囲断裂に対する大腿筋膜を用いた上方関節包再建術と大腿筋膜補強法の鏡視下手術の比較検討
当院の研究責任者(所属)	太田 悟 (真生会富山病院整形外科)
他の研究機関および各施設の研究責任者	該当なし
本研究の目的	腱板大・広範囲腱板断裂に対し、2011年から我々は上方関節包再建術(以下S法)に取り組んできましたが、術中の残存腱の引き出しの程度によって部分修復の上で大腿筋膜による補強するGraft augmentation法(以下G法)も行っています。S法G法とも術後成績が良好であれば、大・広範囲腱板断裂に対する、大腿筋膜を用いた術式としてS法かG法かを術中に選択することによってより最適な術式を選択できます。S法では、使用する大腿筋膜が一般に縦6cm横3cm厚さ6-8mmを必要とします。一方、G法では一般に縦3cm横3cm厚さ6-8mmを必要とします。G法はS法の1/2の大腿筋膜の採取で済むことからより、大腿筋膜採取において患者負担、侵襲が低いものとなります。S法を選択するかG法を選択するかは、術中の判断になります。S法は既に術後の良好な成績が報告させ例ますが、G法はまだ術後成績の報告はほとんど見られません。G法がS法と同等の成績が得られるのであれば、より侵襲の低いG法を選択することは有益であると考えます。今回は、G法がS法との同等性をみる試験になります。
調査データの該当期間	・研究実施期間:承認日から令和6年10月30日 調査データの該当期間:平成29年1月1日から令和2年12月31日
研究の方法(対象となる方)	2017年以降、当院で上方関節包再建術あるいは大腿筋膜補強法を施行し、術後1年以上経過観察可能であった症例を対象とします。年齢・性別は不問です。
研究の方法(使用する情報)	・患者背景:患者イニシャル、性別、生年月日 術前後のレントゲン、MRI ・JOA(日本整形外科学会肩関節疾患治療判定基準)スコア ・UCLA score(The University of California at Los Angeles Shoulder Score) ・自動挙上角度、下垂外旋、内旋角度、術後のMRIでのcuff integrity
試料/情報の他機関への提供	該当なし
個人情報の取り扱い	使用する情報から氏名や住所等の対象者を直接特定できる個人情報は削除いたします。また、研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も対象者を特定できる個人情報は使用いたしません。
本研究の資金源(利益相反)	本研究に関連し、開示すべき利益相反はありません。
相談・問い合わせ・苦情	電話:0766-52-6841(整形外科直通電話) 担当者: 太田 悟 (医師)
備考	